

インパクト
コンソーシアム

インパクトコンソーシアム 第4回地域・実践分科会

2025年2月
インパクトコンソーシアム
地域・実践分科会（金融トラック）

01.

オープニング

02.

前回会合の振り返り/本日の会合コンセプト

03.

事例紹介①

インパクト創出に向けた人材交流の実践

04.

事例紹介②

既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化

05.

クロージング

01.

オープニング

02.

前回会合の振り返り/本日の会合コンセプト

03.

事例紹介①
インパクト創出に向けた人材交流の実践

04.

事例紹介②
既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化

05.

クロージング

【振り返り】金融トラックのコンセプト

地域・実践分科会共通（事業トラック、金融トラック）の問いをふまえ、金融トラックの目的や今後の分科会の共通テーマを設定しました。

分科会共通の問い

問1：【Why】

なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか

→ 地域の経済成長・持続可能性にインパクトエコノミーがどう貢献するかを考えることで、インパクト創出に係る取組みに踏み込み切れていない参加者が腑に落ちる議論を提供。

問2：【What・How】地域で社会・環境的課題解決を事業成長・経営改革の機会とするには、自ら「何を（What）」、「どのように（How）」すればよいか

→ 事業・金融双方につながるテーマであり、上記の問いで関心喚起をした後に、具体的な実践に結び付ける問いとして設定。

インパクト創出と収益性のバランスに関する課題例や、経営戦略にインパクトを織り込むことで成長の機会に結び付けた事例（人材獲得・企業価値の向上・顧客基盤や関係者との連携の構築等）を基に整理していく。

金融トラックの目的

分科会共通の問いを金融の視点から深掘りし、資金循環に向けて参加者の意識・行動変容につなげるべく、「資金の出し手」や「資金提供の手法」、事業評価を含む投融資戦略のあり方を問いかける

金融トラックの共通テーマ

資金の循環により地域のインパクトを創出する取組み

【振り返り】前回会合のコンセプト

金融トラックの目的、ならびに、分科会の共通テーマに対応する事例紹介を中心に分科会で議論します。

2024年11月22日付分科会

「投資から融資、コンサルティング。地域の資源を活かした地域金融機関の新しい価値」や「地域のスタートアップエコシステムとインパクトのバトン」といったテーマで、特に資金提供者目線で資金循環を通して地域におけるインパクト創出に取り組む事例を紹介し、主に**地域の資源を活用したインパクト創出に取り組む意義(Why)**や**仕組み(What)**を中心に理解を深める。

2025年2月27日付分科会

「インパクト創出に向けた人材交流の実践」や「既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化」といったテーマで、世代や組織、地域を超えた人材交流や、インパクト志向のイニシアティブとの連携を通じて地域におけるインパクト創出の次なる一歩を踏み出し、**実践に繋げる方策(How)**を中心に理解を深める。

金融の視点から見た地域のインパクト創出には、従来型の融資にとどまらない多角的なアプローチと、産学官金連携によるエコシステムの形成が鍵であるとの結論が導かれました。



地域金融機関の新たな役割と再生支援のアプローチ

- 肥後銀行・坂田氏からは、熊本地震で打撃を受けた地元企業の再生・事業承継支援に、従来のデットだけではなく、エクイティの活用や外部専門家との連携を取り入れることで、より実効性のある再建策が実現したことが示されました。
- 八十二インベストメント・山田氏からも、地域金融機関が単なる融資機関にとどまらず、地域の課題解決や経営改善のパートナーとしての役割を果たす重要性が強調されました。



地域スタートアップエコシステムの構築とビジネスを通じた社会課題解決

- 沖縄を拠点とするうむさんラボ・比屋根氏からは、スタートアップエコシステムの形成が紹介され、地域内の大学、自治体、金融機関、NPOなどが連携し、若い起業家の育成と地域課題への挑戦が推進されていることが示されました。
- JANPIA・小崎氏からも、地域に即したインパクト投資や支援の仕組みが、地域全体の成長に繋がるという趣旨の発言がありました。

【振り返り】第3回会合のアンケート結果

以下の回答をいただきました（スライド作成者にて要約。一部運営面のコメント等除く）。



- インパクト。まだまだ理解者が少ない、インパクト村。
- 地域におけるインパクト創出には、まずは、インパクトに関わる人たちへの応援団がしっかり形成されることが必要。



- 地域の課題こそインパクトが実感できる。
- 事業承継はとても重要な取り組みで、誠実な地銀さんの取組みに好感を持った。



- ファイナンスやコンサルサービスを通じてインパクトを創出できていると考えるが、それを客観的に説明することが難しい。



- 地域の社会課題解決に向け、地域の事業会社、自治体、大学などを巻き込んだスタートアップ・エコシステムが必要。
- ベンチャーデットを通じて構築した東京でのネットワークを地域企業の課題解決につなげてはどうか。



- スタートアップ支援は自社でも取組みたいが、（VCキャピタルなどとは異なり）損害保険会社という立場では難しい。
- 分科会メンバーと共同で何か取り組めるようなことがあるのではないか。



- 地域の資金循環を高める上で、域内投資に対してインセンティブを与えること考えられないか。
- 域内投資を促進する政策は考えられないか。エンジェル税制の法人版など。

【振り返り】第3回会合のメディア掲載

分科会の内容がNOTEに掲載されたほか、より深めた内容がForbes Japanに掲載されました。

オーガナイズングデスクのNOTE

Forbes Japan 2025年3月号



産官学連携 インパクトコンソーシアム 地域・実践分科会 開催報告【3】金融の視 点から考える地域のインパクト創出

♡ 12

SIIF
2025年1月17日 11:00

[産官学連携 インパクトコンソーシアム 地域・実践分科会 開催報告【3】金融の視点から考える地域のインパクト創出 | SIIF](#)



Forbes JAPAN(フォーブスジャパン)「インパクト100」2025年3月号

第4回分科会 ～本日のコンセプト～

金融トラックの目的、ならびに、分科会の共通テーマに対応する事例紹介を中心に分科会で議論します。

2024年11月22日付分科会

「投資から融資、コンサルティング。地域の資源を活かした地域金融機関の新しい価値」や「地域のスタートアップエコシステムとインパクトのバトン」といったテーマで、特に資金提供者目線で資金循環を通して地域におけるインパクト創出に取り組む事例を紹介し、主に**地域の資源を活用したインパクト創出に取り組む意義(Why)**や**仕組み(What)**を中心に理解を深める。

2025年2月27日付分科会

「**インパクト創出に向けた人材交流の実践**」や「**既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化**」といったテーマで、世代や組織、地域を超えた人材交流や、インパクト志向のイニシアティブとの連携を通じて地域におけるインパクト創出の次なる一歩を踏み出し、**実践に繋げる方策(How)**を中心に理解を深める。

01.

オープニング

02.

前回会合の振り返り/本日の会合コンセプト

03.

事例紹介①
インパクト創出に向けた人材交流の実践

04.

事例紹介②
既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化

05.

クロージング

本日のご登壇者：事例①

地域におけるインパクト創出に向けた実践について、資金と事業の担い手双方から、話題提供をいただきます。

インパクト創出に向けた人材交流の実践



UntroD Capital Japan
取締役
山家創 様

東北大学を卒業後、研究開発型半導体ベンチャーで経営企画などを経て、2015年にリアルテックホールディングス（現所属企業）に参画。2020年に地域発のベンチャーへ積極的な投資を行う「グローバルディープテックファンド」の組成をリード。参画企業である地域金融機関や事業会社と連携して、優れた技術を持つベンチャーを支援・育成することで、世界の課題解決と地域経済の活性化を目指す。



池田泉州キャピタル
投資部 部長
武川敏也 様

2007年 入行
主に営業店で法人関連業務に従事
大学発スタートアップと出会う
2019年 社内公募で出向を決意
2021年 REAL TECH FUND 出向
2022年 池田泉州キャピタル 出向
2023年 大阪産業局 兼務出向中

・社会課題解決に資する技術を有するスタートアップの支援を通じ、「子供達に明るい未来を！」と自身のミッションを掲げ奮闘中。



ベータ・ベンチャーキャピタル
代表取締役パートナー
渡辺麗斗 様

神戸大学経営学部市場科学分野にてベンチャーファイナンスを専攻。
2012年にドーガンにてインターンを開始し、2014年に正式入社。2017年に分社化によってベータ・ベンチャーキャピタルを設立しジェネラル・パートナーに就任。
地域に根ざしたベンチャーキャピタル運営を実践し、地域であたりまえに起業家が応援される風土を作っている。



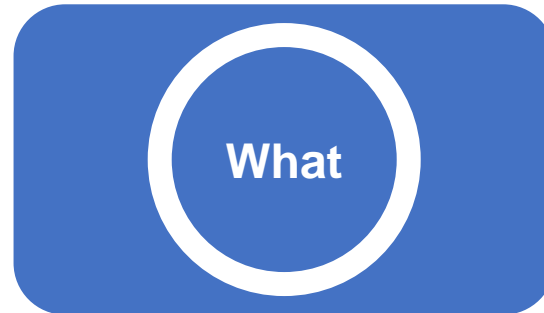
QPS研究所
代表取締役社長 CEO
大西俊輔 様

九州大学大学院航空宇宙工学専攻博士課程修了。博士（工学）。
2013年にQPS研究所に入社し、翌年 代表取締役社長に就任。
現在は世界トップレベルの小型SAR衛星の開発・運用を行っており、2023年に同社を東証グロース市場への上場へと導いた。
学生時代から現在にいたるまで、十件を超える小型人工衛星開発プロジェクトに従事。

金融トラックの問いを踏まえ、特に以下のような観点でディスカッションいただきます。



地域における資金提供者が
インパクト創出に取り組む
意義は？



地域における資金提供者は
インパクト創出に向けて、
どのようなリソースを投じ
たり、戦略をとれるか？



地域における資金提供者は
どのように最初の一步を踏
み出すことができるか？

01.

オープニング

02.

前回会合の振り返り/本日の会合コンセプト

03.

事例紹介①
インパクト創出に向けた人材交流の実践

04.

事例紹介②
既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化

05.

クロージング

本日のご登壇者：事例②

既存イニシアティブとの連携の観点から、インパクト志向金融宣言・地域金融分科会様及び北九州市様に話題提供をいただきます。

既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化



三井住友信託銀行
フェロー役員
金井司 様

1983年入社。2003年にサステナビリティ部署の立ち上げを主導し、ESGファンド、環境不動産業務、ポジティブ・インパクト・ファイナンス、テクノロジー・ベースド・ファイナンスチーム等の開発、組成を手掛ける。一般社団法人エコシステム社会機構理事。インパクト志向金融宣言の初代運営委員長。政府系委員多数。著書は『CSR経営とSRI』等。



静岡銀行
法人ファイナンスグループ課長
山崎剛 様

2005年 静岡銀行入行
2012年 東京営業部
2016年 香港支店
2021年 ソリューション営業部
(現コーポレートサポート部) 法人
ファイナンスグループ

県内外の営業店を経て、タイの金融機関へ出向を経験。2021年よりポジティブ・インパクト・ファイナンスを含むサステナブルファイナンスの推進を行っている。



北九州市
未来産業推進部長
森永康裕 様

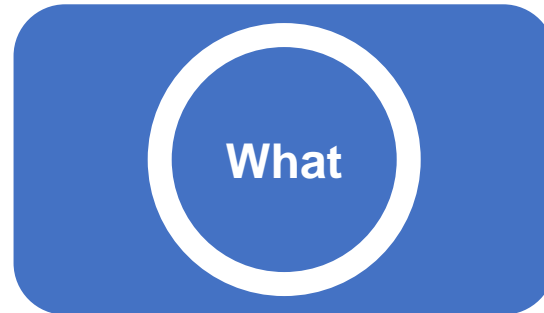
1993年 北九州市入職
2023年 地域経済振興部長
2024年 未来産業推進部長 (現職)

北九州市が掲げる「稼げるまち」の実現に向け、スタートアップ、半導体、次世代自動車産業、宇宙産業、地域企業のDX・GXなどの「未来産業」の振興に邁進中。

金融トラックの問いを踏まえ、特に以下のような観点でディスカッションいただきます。



地域における資金提供者が
インパクト創出に取り組む
意義は？



地域における資金提供者は
インパクト創出に向けて、
どのようなリソースを投じ
たり、戦略をとれるか？



地域における資金提供者は
どのように最初の一步を踏
み出すことができるか？

01.

オープニング

02.

前回会合の振り返り/本日の会合コンセプト

03.

事例紹介①
インパクト創出に向けた人材交流の実践

04.

事例紹介②
既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化

05.

クロージング

アンケート記入のお願い

成果物の作成に向けて、皆様のインパクトに関するお考えや、取り組みたい内容、一歩踏み出すうえでの難しさについて、率直なご意見をお聞かせください。



地域でインパクトを創出することが自社や地域にとってどのように重要であるか、お考えを教えてください。



事例紹介を踏まえ、地域でのインパクト創出に向けて、自ら取り組みたいことや難しさを感じた取り組み、またその理由を教えてください。



地域でのインパクト創出に向けて、自らのネクストステップとして考える行動や、それを進める上での課題についてお書きください。また、一般的に必要なと思われる支援があれば教えてください。